



iwork-pro.jp

クリックして
Webサイトへ
アクセス

コミュニケーション広報ツール

2026

アイ・ワーク News

2

iwork News Vol.34



伝えたい
ことが

色数をしぼると、 **目立つ**んです。

「あっちも目立たせたいけど、こっちも目立たせたい結果、全体的にごちゃごちゃしていて読みにくくなってしまった」紙面に遭遇することがあります。

色をたくさん使った方が目立つし、華やかで良いかも?と思われる方もいるかもしれませんが、色が多くなると、視線があちこちに散ってしまい、デザインに一貫性がなくなります。読みづらい印象を与え、ユーザーに優しいデザインではなくなってしまうのです。

物理学者で色彩論家のオグデン・N・ルードは「美しい配色は、多くの色ではなくごく限られた色の使用で達成できる」と言っています。色彩調和には、配色比率というものがああり、3色を設定して配色をそれぞれ「70:25:5」の割合にすると均衡の取れた美しい配色がつけれます。全てのデザインがこの通りというわけではないですが、色数をしぼった方がメリハリが利き、伝えたいことが目立つ。そして洗練された印象を与えることができ、伝わりやすいデザインになるかと思えます。

みなさまも一度、色数について考えてみませんか?

配色比率 70:25:5の法則

例

配色比率

70:25:5
の
法則



ベースカラー、メインカラー、アクセントカラーの3色が「70:25:5」の割合になると、全体がまとまりバランス良くなります。視認性も良く、見やすい比率です。色数が多いかも?と思ったら、この法則を利用してみるのも手かもしれません!

ベースカラー 70%

アクセントカラー 5%



メインカラー 25%

1ページではまとまっていたものが、見開きになると目立たなくなることあります。そんな時は、見開き紙面内の優先順位を振り返って、色数を再考した方が良い場合もあるかもしれません。

原稿入稿の際は、色数に関しても
ぜひ一度考えてみてくださいー!



“いきいき栃木っ子”
デザイナー 菅波
S.SUGANAMI

皆さんは、本を読むとき、
紙派(アナログ)でしょうか。
それとも**電子派(デジタル)**でしょうか。

私は長らく、迷うことなく紙派(アナログ)でした。
ところが今年の1月、AmazonのKindleでセールが開催されていて
何冊か電子書籍を買ってみました。
思いのほか「電子書籍を買ってよかった!」と思うことがあり、
実際に使ってみて感じた紙の本と電子書籍
それぞれの良さをまとめてみました。

本
を
読
む
と
き



アナログ派

良い点



- 👍 葉やカバーなどの
カスタマイズができる
- 👍 読むペースを自然に
調整しやすい
- 👍 本に直接
書き込める
- 👍 紙の質感を
楽しめる



あなたは
どっち派?

デジタル派

良い点



- 👍 スマホ・タブレット1台で
管理できる
- 👍 文字・画像を拡大できて
読みやすい
- 👍 本の収納場所に
困らない
- 👍 ページを開いたままにでき、
作業中も便利



“美味しいもの求めて三千里”
WEBデザイナー 橋本
M.HASHIMOTO

アナログもデジタルも、どちらも
使ってみた結果、「どっちもいいと
ころがある!」というのが私の感想で
す。目的や気分に合わせて使い分
けるのが、満足度の高さやワクワク
に繋がっていくのだと思っています。
結局のところ、アナログでもデ
ジタルでも、好きなデバイスで、楽し
く本を読むこと。それが読書にとっ
て一番大切なのかもしれませんね。